

1. 内外政

- ・26日、自由党は、憲法裁判所にて、モルドバのNATO加盟の合憲性の如何を問う旨発表。また、27日、フィラト自由民主党党首は、状況次第ではモルドバのNATO加盟はありうるし、右は違憲とはならない旨発言。
- ・26日、ヴォローニン共産党党首は、ロシアのモルドバへの圧力は誤った政治であるとし、右は両国関係を引き裂く旨発言。
- ・26日、ピロシコフ在モルドバ・ウクライナ大使は、大統領選挙の際に、沿ドニエストル「政権」が同地域のウクライナ有権者の投票を妨害したとし非難。
- ・27日、ティモフティ大統領は、ポロシェンコ・ウクライナ次期大統領選への選挙勝利の祝辞を发出。
- ・27日、グローザ外務・欧州統合省次官は、第22回ウクライナ・モルドバ間国境管理支援使節(EUBAM)会議に出席。
- ・28日、議会は、本年11月30日の議会選挙の実施を決定。
- ・28日、レアンカ首相は、ヤツェニューク・ウクライナ首相及びガリバシヴィリ・グルジア首相とともに、ベルリンにてメルケル独首相と会談。レアンカ首相は、昨今の地域の不安定化は、EUが周辺国の欧州統合路線を認めないことが原因で

ある旨発言。メルケル独首相は、ドイツは東欧諸国とのパートナー関係の深化に賛成している旨発言。

- ・30日、レアンカ首相は、ミンスクにてCISサミットに出席、ミヤスニコフ・ヴァイチ・ベラルーシ首相と会談し、経済関係を中心に議論。
- ・30日、ティラスポリにて、ブルラ「沿ドニエストル共和国議会議長」及びコンスタンチノフ・ガガウズ自治区議会議長が会談、両地域の協力関係活発化に関し議論。

2. 経済

- ・29日、ラザル経済相は、2013年のGDP成長率が8.9%を記録し、多くの人々を驚かすことになったが、これはモルドバのGDP構造が国内製造及び製品の成長を意味し、高い価値のあるものがまだモルドバにはあることを示した、2014年のGDP成長率は3.5%を予測しているが、このようなポジティブな経済予測は輸入よりも輸出の成長が高く、海外からのモルドバの送金額が着実にある傾向にあり、2013年の送金額はGDPの24.8%を占めた旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)